

個別リスク検診研究
ニュースレター

「アイリスレター」は、
個別リスクの内視鏡検診研究に
ご協力いただいた方に
お送りしているニュースレターです。



見出し

- * 次年度もリクルート継続：研究協力者 1 万人超え1
- * 全国がん登録とは2
- * 研究地域紹介：茨城県水戸市4

発行日 令和 5 年 5 月 31 日

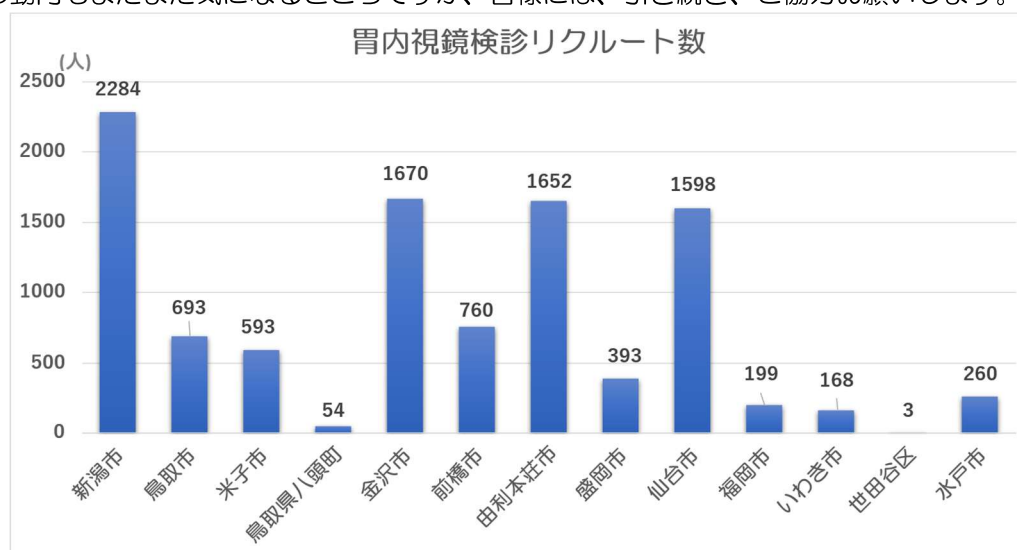
発行元 胃内視鏡検診
研究事務局URL <http://www.j-sasg.jp/>

2023 年度もリクルート継続：研究協力者 1 万人超え

2022 年度は、全国 11 地域で研究協力者のリクルートを行いました。2022 年 12 月にはようやく研究協力者が 1 万人を超え、2023 年 3 月には 10,327 人となりました。目標とする 12,000 人まであと一息というところまで来ています。

2022 年 8 月の調査では新規研究協力者が 300 人台にとどまっていた。秋以降、コロナ感染も終息に向かい、参加地域の胃内視鏡検診も徐々に回復し、新規研究協力者も 1,041 人まで増やすことができました。目標到達も見えてきましたので、2023 年度も研究協力者のリクルートを継続することが決定しました。

2023 年度には新たに 2 地域（神奈川県川崎市、岡山県井原市）が加わります。コロナ感染の動向もまだまだ気になるところですが、皆様には、引き続き、ご協力をお願いします。



本研究は、日本医療研究開発機構研究費による「個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究」（課題番号：22ck0106729）研究班（研究代表者 深尾彰）の一部として行っています。

全国がん登録とは

全国がん登録とは

全国がん登録は、がん登録推進法に基づき、2016年から開始されました。日本全国でがんと診断された人を確認し届け出をする制度で、がん患者の情報を収集し、その結果を国で一つにまとめて分析します。

全国がん登録により、全国でどのくらいのがん患者がいるのか、どのような人にどのようながんが多いかなど、日本におけるがん患者数やがんの特徴を把握することができます。また、がん治療の成果を検討する上でも重要な役割を果たします。全国がん登録の仕組みがなかった時には日本全国でどのくらいのがん患者がいるのかわかりませんでしたが、制度の発足により、正確な情報を把握することができるようになりました。

全国がん登録の仕組み

がんと診断された場合、届け出をするのは患者自身ではなく、医療機関が都道府県へ医学的な専門情報を含めて報告します。がん患者の情報は都道府県別に収集され、最終的に国立がん研究センターで全国のデータがまとめられます。国立がん研究センターは全国のがん患者の情報を収集し、さらに死亡の情報と照合し、毎年どのくらいのがんが発生しているかを、国立がん研究センターのホームページに公開しています。

全国がん登録に関する情報

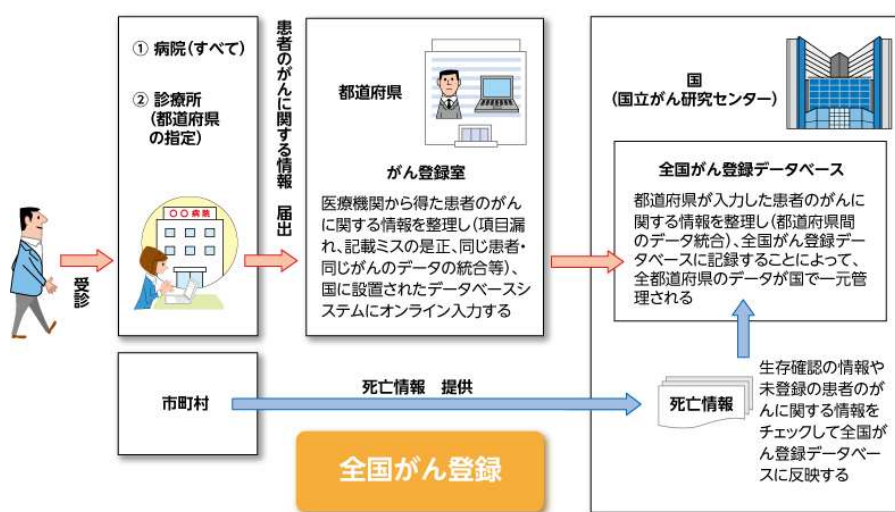
全国がん登録について、さらに詳しい状を知りたい方は以下のホームページをご覧ください。

国立がん研究センター がん情報サービス がん登録：全国がん登録とは

<https://ganjoho.jp/public/institution/registry/national.html>



図 全国がん登録の仕組み



(国立がん研究センターHP

<https://ganjoho.jp/public/institution/registry/national.html>)

全国がん登録を行う目的

日本全国でどのくらいのがん患者がいるのかを正確に知ることができます。その情報は、すべての国民が公平にがんの診断や治療を受けられる仕組みづくりの基礎資料となります。

全国がん登録情報の活用

日本国内であっても、地域によって多いがんが異なっています。たとえば、胃がんは東北地方の日本海側に多い特徴があります。その理由としては、塩分の多い食事摂取が影響していることが指摘されてきました。しかし、東北地方ばかりではなく、山陰地方も胃がんの多い地域です。これらの地域で胃がん患者数を正確に把握することで、その原因や予防対策に役立てることができます。

最近では、健康格差が話題になっています。地域によって、がんの診断・治療を行うことができる病院が限られている場合があることもその原因の一つです。地域に多いがんや患者数を把握することで、病院の機能を強化したり整備することができます。

また、がん検診が正しく行われ、地域におけるがんの早期発見・早期診断に役立っているか、全国がん登録データと照合することにより確認することもできます。

個人情報管理

全国がん登録は法律に基づいて、日本全国のがん患者の情報をすべて収集するため、個々の患者からの同意は取得していません。しかし、がん登録では、がんと診断された人の情報を医療機関や保健所などから収集するために、個人情報が必要になります。がん登録の情報を管理する都道府県の担当施設

や国立がん研究センターでは、個人情報の漏洩（ろうえい）がないように、厳しく管理しています。個人のプライバシーや権利が侵害されることのないよう「がん登録等の推進に関する法律」により、個人情報の保護や管理、罰則規定が定められています。また、全国がん登録の業務に携わる職員には専門的な研修が義務付けられています。

なお、国立がん研究センターから毎年報告される集計結果には、個人情報は含まれていません。

AMED 研究との関係

個人のリスク別に胃がん検診の検診間隔を検討する本研究では、定期的に全国がん登録との照合を行い、研究協力者の方々にがんにかかった人はいないかを確認する必要があります。もちろん、皆様から頂いているアンケート調査や検診の結果も胃がんの情報を調べるのに役に立ちますが、検診を受けなかったり、アンケートを返送しなかった場合には研究協力者の状況が把握できません。そこで、すべての研究協力者の情報を確認するために全国がん登録との照合を行います。

全国がん登録を研究に利用するためのルールに従い、国立がん研究センターに研究に利用するための申請をします。許可が得られた場合には、個人情報付きのがん情報を研究班のデータと照合することができます。ただし、この場合も定められたルールに従い、個人情報を厳しく管理します。



研究協力の中止を希望する場合

本研究への研究協力の中止を希望される場合は、各地域の研究事務局にいつでもご相談ください。研究協力の中止により、地域でのがん検診を始めとする様々な保健サービスが受けられなくなるなどの心配はありません。また、本研究につきまして、質問や意見がありましたら、各地域の研究事務局にご連絡ください。内容によっては返答に時間を要する場合がありますが、回答いたします。

研究地域紹介：茨城県水戸市

茨城県は県北、県央、鹿行、県南、県西の5地区、44市町村からなっています。県内の保健所は10か所、郡市医師会数は23です。

水戸市は県央地区にあり、東京から約100km北で県のほぼ中央に位置する県庁所在地です。水戸駅から徒歩圏内に千波湖があり、そこに隣接する形で日本三名園の一つである偕楽園があります。偕楽園の好文亭からは千波湖が一望でき、梅のシーズンでなくとも素晴らしいです。2月の梅まつり中はCOVID-19禍以前には30万人もの観光客が訪れていました。この偕楽園近くに「The 迎賓館 偕楽園別邸」が2023年4月7日に開館しました。レストランやカフェ、多目的ホールがあり、テラスからは偕楽園本園も眺望できるようです。パークPFI（民間資金を活用した社会資本整備）制度による県内初の施設です。国際会議の開催も視野に入れており、2023年5月の広島市での先進7か国首脳会議に伴い開かれる、内務・安全担当大臣会合の開催地が水戸市に決定されたことで喜びが広がっています。

水戸市の人口はおよそ27万人で、その年齢階級は0-14歳12%、15-39歳26%、40-64歳34%、65-74歳13%、75歳以上

15%です。医療機関は水戸赤十字病院、水戸済生会総合病院、水戸協同病院の他22病院と249か所の診療所で構成されています。水戸市保健所が管轄しています。

茨城県メディカルセンターでの人間ドック時のレントゲン画像検査画像から、健康な胃粘膜の割合は生年別に1935年20%、1955年49%、1975年81%、1990年以降95%（いずれもピロリ抗体検査は陰性）（JJCO, 2022.）でした。生まれが遅いほどピロリ未感染胃粘膜の割合は増加し、胃がん検診開始年齢の50歳でのピロリ感染胃炎の割合は2025年には5人に1人となることになります。

茨城県衛生研究所、茨城県立健康プラザ、茨城県中央保健所、水戸市精神保健福祉センター、水戸市保健所、水戸市医師会が同じ敷地内にあり、道を挟んで日本対がん協会茨城県支部、茨城県メディカルセンターがあります。本研究は、水戸市医師会を始め、市内の医療機関の協力を得ながら研究協力者のリクルートを行っています。

胃内視鏡検診研究中央事務局 〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

帝京大学 医療技術学部看護学科 保健医療政策研究室

URL: <http://www.j-sasg.jp/> E-mail: endoscope.jimukyoku@gmail.com